

# 令和6年産 水稲 コシヒカリ 栽培しおり

病害虫の発生状況については最新の香川県病害虫防除所のホームページをご覧ください。

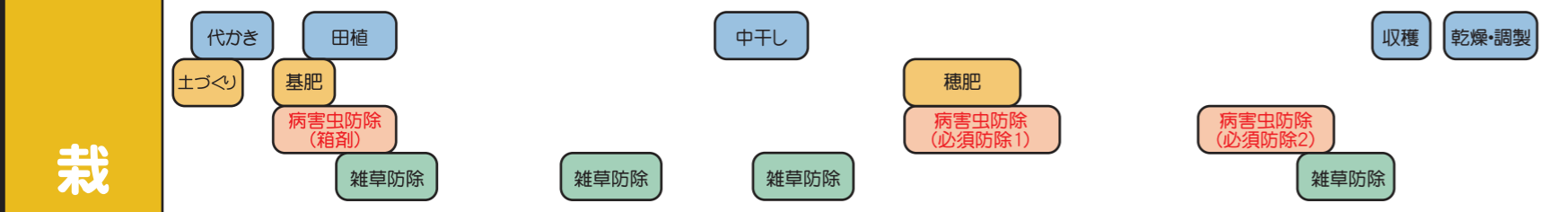
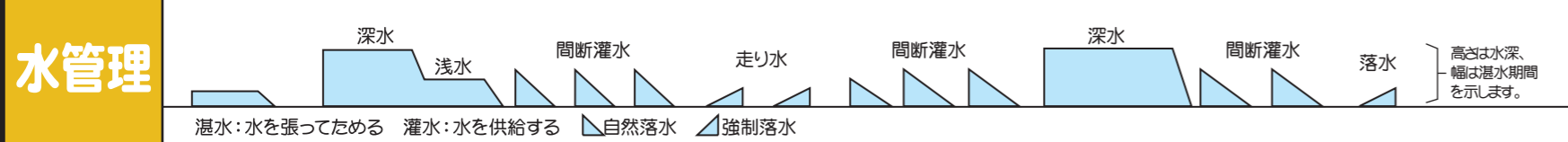
JA香川県東讃営農センター(大川地区) 監修:香川県東讃農業改良普及センター

土づくりのため、堆きゅう肥等の積極的な施用に努めましょう。また、稲わらや麦わらは焼かず、すき込みましょう。

栽培履歴を必ず記帳し、出荷開始15日前までに提出しましょう。毎年種子更新100%に取組みましょう。

作業 品種	田植日	間断灌水開始 (田植後15日)	中干し期間	穂肥施用 (出穂16日前)	出穂期 (ほ場全体の 4~5割が出穂)	収穫期
コシヒカリ	4月15日	4月30日	5月20日 ~ 6月16日	6月27日	7月13日	8月13日~8月16日
	4月25日	5月10日	5月30日 ~ 6月21日	6月29日	7月15日	8月14日~8月18日
	5月1日	5月16日	6月5日 ~ 6月24日	7月2日	7月18日	8月17日~8月21日
	5月10日	5月25日	6月14日 ~ 6月28日	7月6日	7月22日	8月21日~8月25日
	6月1日	6月16日	7月1日 ~ 7月10日	7月17日	8月2日	9月2日~9月6日

※中干しは、田面にできるヒビ割れが1cm程度までとします。強い中干しは、根を痛める原因となります。



### 栽培管理

○ 耕転前に土壌改良資材を散布する。(施肥基準を参照)

◇ 除草剤散布後、補植はしない。  
◇ 除草剤散布後1週間間は落水しない。  
◇ 移植後や深水とし、活着後は浅水とし、植付は浅水とする。

● 初期病害虫防除のため、必ず粗粒剤を散布する。(病害虫防除基準を参照)

◇ 代かきは、できるだけ均一に行う。

○ 植付基準

植付本数	3~4本
株間	18~22cm (18.5~15.2株/m)

(悪) 極端な中干し (良) 適度な中干し

ヒレタゴボウ

クサネム

○ 刈取り後は2時間以内乾燥に移すか、カントリーエレベーターに出荷する。

○ 刈取り時の粉水分は25%前後とする。

○ 初めの80~90%が黄変したものを刈取る。

◇ 出穂前(出穂10日前)から出穂後(出穂16日後)まで、中干し期間中の種まき時期に、10日前(出穂10日前)に、畦畔などの草刈りは出穂前(出穂10日前)に、カメムシ類の対策として、(病害虫防除基準を参照) 類等の防除を行う。

● 出穂前(出穂10日前)から出穂後(出穂16日後)まで、(有機質肥料の場合は出穂16日前)に、穂肥の施用時期は出穂16日前。

### 施肥基準

1) 基肥・穂肥の施肥基準 (kg/10a)

肥料名	窒素-リン酸-加里 N-P-K (%)	総量	基肥	穂肥 (出穂16日前)	備考
コシヒカリ一発	16-14-14	30	30	-	フンシヨット肥料側条施肥対応
Jコート早生1号	14-14-14	35	35	-	フンシヨット肥料側条施肥対応
コシツータッチ	10-10-10	60(50)	35(30)	25(20)	フンシヨット肥料

注( )は、短期栽培の場合・粘土質土壌の場合 側条施肥対応肥料で手すりする場合は、基肥を1割増やす

2) 土壌改良資材等 (いづれか) (kg/10a)

肥料名	総量	基肥	出穂35日前頃
粒状くろがねシリカ	100	100	-
苦土一番	40	40	-
けい酸加里	20(40)※	(40)※	20

※けい酸加里を基肥で使用する場合は、10aあたり40kgとする。

3) 堆肥を施用する場合 (kg/10a)

肥料名	窒素-リン酸-加里 N-P-K (%)	総量	基肥	穂肥 (出穂16日前)
牛ふん堆肥	-	1000	1000	-
コーン堆肥	-	4000	4000	-
コシツータッチ	10-10-10	40	25	15

野菜跡の基肥施肥基準 (コシツータッチ) (kg/10a)

前作物名	基準量
ナバナ、ブロッコリー、キャベツ、青ネギの春どり	0
ブロッコリー、キャベツ、青ネギなどの年内とり、レタス、ニンニク、タマネギ	10~15

＜留意事項＞

- 堆肥を施用し土づくりに努める。
- コーン堆肥を使用する場合は、作付けの前年秋を目安に施用し、遅くとも12月までに施用する。
- 堆肥やコーン堆肥を連年使用すると地力が向上するので肥料の施肥量を減らす。
- 短期栽培の場合は、施肥量を1割程度減らす。
- 中山間地帯及び地力の高いほ場では減肥する。
- フンシヨット肥料を使用しているほ場で高温により肥切れした場合は、出穂直前にBB488を用いて10kg/10a程度施用する。
- 被覆肥料のマイクロプラスチックの流出には十分に気をつけること。



## 病害虫防除基準

＜必須防除＞

防除時期	対象病害虫名	使用薬剤及び10a当たり散布量	
移植まで(緑化期~移植当日)	いもち病、紋枯病、コブノメイガ、ウンカ類、ツマグロヨコバイ	ビルダーフェルテラチェスGT粒剤 1箱当たり50g散布	
いづれか 必須防除1	出穂20~15日前 (収穫45日前まで/1回)	いもち病、紋枯病、カメムシ類、ウンカ類	ゴウケツモンスター粒剤 3kg
	出穂10日前 (収穫35日前まで/1回)	いもち病、紋枯病、ウンカ類、カメムシ類	ワイドパンチ豆つぶ 250g
いづれか 必須防除2	出穂直前~穂揃期 (穂揃期まで/2回以内) (収穫7日前まで/3回以内)	いもち病、紋枯病	ダブルカットバリタフロアブル1,000倍 100ℓ
	出穂7~10日後 (収穫7日前まで/3回以内)	カメムシ類、ウンカ類	スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 100ℓ
	出穂10~14日後 (収穫7日前まで/3回以内)		スタークル豆つぶ 250g
			スタークル粒剤 3kg
			スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 (50g/100ℓ)

＜確認防除＞

防除時期	対象病害虫名	使用薬剤及び10a当たり散布量 (使用可能時期/回数)
田植直後	スクミンゴガイ	スクミン (粒剤) 1~4kg (収穫60日前まで/2回以内)
発生初期	いもち病、もみ枯細菌病	ブラシンプフロアブル 1,000倍 (収穫7日前まで/2回以内)
出穂10~20日前	稲こうじ病	パリダシン液剤 5,000倍 (収穫14日前まで/5回以内)
発生初期	紋枯病	パントレボン粒剤 L 3kg (収穫30日前まで/3回以内)
発生初期	ウンカ類、コブノメイガ、ツマグロヨコバイ、ニカメイチュウ	

## 雑草防除基準

散布時期	除草剤名 10a当たり処理量	注意事項	
初・中期除草剤(いづれか)	カチボシジャンボ 小包装(パック) 10個 (300g)	● 水深5~6cmで散布する。 ● 散布後3~4日間は水深3~5cmを保つ。 ● 藻類や浮草の発生が多い場合には、モグトン等で処理した後に使用する。	
	カチボシフロアブル 500ml	● 湛水状態で散布し、3~4日間は水深3~5cmを保つ。 ● 藻類や浮草の多発生や、散布時に田面が露出している場合は、拡散が劣り、除草効果の低下や薬害が発生するため注意する。	
	トップガンR豆つぶ250 250g	● 水深5~6cmの湛水状態で散布し、散布後3~4日間は水深3~5cmを保つ。 ● 藻類や浮草が発生した場合は、モグトン等で処理した後に使用する。 ● 漏水田、極端な浅植田では薬害が出やすいので使用を避ける。	
	ラオウ1キ口粒剤 1kg	● 湛水状態で散布し、散布後から3~4日間は水深3~5cmを保つ。 ● 高温時、漏水田、極端な浅植田では薬害が出やすいので使用しない。	
移植後20~30日 (収穫60日前まで/1回)	バサグラン粒剤 4kg	● 初期除草剤散布後、広葉雑草が残った場合に使用する。 ● 落水後はたごく浅水状態で散布し、3日間(たごく浅水処理は5日間)は入水しない。 ● 散布後2日以内に降雨があると効果が不十分になるので留意する。	
中期除草剤	移植後25日~ノビエ4.0葉期まで (収穫40日前まで/2回以内)	クリンチャージャンボ 小包装(パック) 30個 (1.5kg)	● 初期除草剤散布後、ヒエが残った場合に使用する。 ● 水深5~6cmの湛水状態で散布し、散布後3~4日間は水深3~5cmを保つ。 ● 藻類や浮草が発生した場合は、モグトン等で処理した後に使用する。
	移植後20日~ノビエ4.0葉期まで (収穫50日前まで/2回以内)	クリンチャーバスメ液剤 1,000ml、水70~100ℓ	● 落水後はたごく浅水状態で散布し、3日間(たごく浅水処理は5日間)は入水しない。 ● 散布後2日以内に降雨があると効果が不十分になるので留意する。 ● 高温時、軟弱苗、重複散布では薬害が出やすいので注意する。 ● 展着剤は使用しない。
	移植後20日 (稲5葉期以降)~ノビエ4葉期 (収穫60日前まで/1回)	ツイゲキ豆つぶ250 250g	● 水深5~6cmの湛水状態で散布する。 ● 散布後3~4日間は水深3~5cmを保ち、7日間は落水、かけ流しはしない。 ● 高温時、漏水田、極端な浅植田では薬害が出やすいので使用しない。

周辺環境のため農薬を散布した場合は1週間は落水しないようにする。